令和６年度　東京都北区立堀船中学校

# 堀船中だより

令和６年９月　第６号

校長　阿久津　光生
〒114-0002
東京都北区王子 5-2-8
Tel 03-3911-8817

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標　自ら学び　自ら考え　自ら行動できる生徒

## 《９月２日（月）今日から一学期後半がスタートしました！》

いよいよ、本日９月２日（月）から一学期後半がスタートしました。

長い休みを経て学校生活の再スタートを切るにあたり、みなさんに三点お願いがあります。

第一は、事故・ケガ・熱中症・感染症には十分気をつけて過ごして欲しいということです。生命を守り、安心・安全な生活を送ることが何よりも大切です。

第二は、自分の目標に向かって、スモールステップで精一杯頑張ることです。どんな逆境でも、ピンチをチャンスに変えるという思いを持って、焦らずコツコツと努力していけば、必ず目標に到達することができます。前を向いて進んでいきましょう。

第三は、１人で悩まないこと、助け合うことです。悩みは、誰もが持っています。１人で抱え込まず、先生や友人、さまざまな相談窓口に話してください。そして、他人の痛みや苦しみを理解して、互いに信頼し合い、協力しあっていきましょう。

また、来る創立 70 周年記念式典に向けて、地域の皆様、保護者の皆様から厚いご支援・ご協力をいただき、大変感謝しております。教職員一同で力を合わせ、70 周年にふさわしい教育活動を行って参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## 《1 年生、岩井臨海学園に行ってきました！》

１年生は７月 22 日（月）～24 日（水）までの２泊３日で、岩井臨海学園に行ってきました。岩井臨海学園では、ライフセービングプログラムを取り入れた活動を通して、海を知り、命の大切さを学び、人命救助等について真剣に学ぶことができました。また、規則正しい集団生活の中で、協力して宿泊行事を行うことができました。さらには、宿舎の皆様やライフセイバーの皆様からも、礼儀やマナー、整理整頓や清掃等についてたくさんのお褒めの言葉をいただき、感激いたしました。楽しく充実した宿泊学習となりました。

## 《早朝より堀船サマーフェスティバルボランティアお疲れ様でした！》

７月27日（土）、北区青少年堀船地区委員会主催の堀船サマーフェスティバルが午前９時30分より開催されました。36名の堀中お手伝いのみなさんは、９時に堀小体育館前に集合し、来場者がオープニングと同時に手作りゲームや模擬店で楽しく過ごせるよう、さっそく開設準備にかかりました。優しく丁寧に対応しながら、一生懸命仕事をしているみなさんの姿はとても立派でした。暑い中、早朝より本当にありがとうございました。

## 《早朝より堀船地区納涼盆踊り大会会場設営・片付けボランティアお疲れ様でした！》

８月24日（土）午前８時半より、堀中お手伝いのみなさんが堀船地区納涼盆踊り大会の会場設営のボランティアをしてくれました。

朝早くから地域の皆様と会場設営を行い、翌25日（日）の片付けのお手伝いと合わせて、28名ものみなさんが参加してくれました。本当にありがとうございました。

## 《堀船地区納涼盆踊り大会で大江戸ダンス隊が見事な踊りを披露しました！》

８月24日（土）、堀船地区納涼盆踊り大会に大江戸ダンス隊が登場しました。

大江戸ダンス隊は、『丘を越えて』『鉄道唱歌』の２曲を見事に披露した後、舞台上からリードする形で、最後は会場内の全員を巻き込んで『ジャンボリー・ミッキー』を踊りました。

小さなお子さんたちから大人まで大盛り上がりで、とっても楽しい時間を共有できました。どうもありがとうございました。

## 《堀船中PTAの皆様もフランクフルト出店で盆踊りを大いに盛り上げてくださいました！》

８月24日（土）の堀船納涼盆踊りでは、大江戸ダンス隊ばかりでなく、堀中生に今後何らかの形で利益を還元する目的で、堀船中PTAの皆様がフランクフルトのお店を出店してくださいました。

お店は大人気で、PTAの皆様は休む間もないぐらいに大忙しでした。また、堀中生には割引販売も行ってくださいました。

PTAの皆様の労を惜しまぬご尽力に、頭が下がる思いです。本当にありがとうございました。

## 《祝　2024JAPAN CUP バトントワリング大会（全国大会）に３年生髙橋（海）・寺嶋さんが出場し、ドリルダンス部門で見事に第２位にかがやきました。本当におめでとうございます》

2024JAPAN CUP ジャパンカップ全国バトントワリング大会（全国中学校バトントワリング選手権大会）が８月11日（日）に東京都調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザで行われ、３年生髙橋（海）さん・寺嶋さんが出場し、ドリルダンス部門で見事に全国第２位に輝きました。本当におめでとうございます。髙橋さんは、10日（土）に行われた全国大会個人戦にも出場しました。

２人の全国大会直前の練習を見せていただきましたが、素晴らしい演技に大変感動いたしました。日々の猛練習が、普通の人には絶対真似ができないスペシャルな演技を支えていることを実感しました。これからもぜひ頑張ってください。

# アントレプレナーの生き方（2）～ジェームズ・ダイソン　その２～

みなさんは、「羽根のない扇風機」をご存じでしょうか。写真のとおり、この特徴的なデザインの扇風機を最初に開発したのも実はダイソン氏なのです。ダイソン氏は、扇風機の中央に構える大きな羽根の存在に疑問を感じていました。誰もが当たり前に思っているこの扇風機の形状を、変えることができるのではないか、と。実は大きな羽根がなくとも風を起こす技術があることは昔から知られていて、ダイソン氏が発明したわけではありません。実際にダイソン氏は、「ハンド・ドライヤーを調べている過程でこの羽根のない扇風機のアイディアを思いついた」と語っています。前号で紹介したダイソンの掃除機に使用されているサイクロン方式も、昔からあった技術で、ダイソン氏がゼロから生み出した発明ではありませんでした。しかし、もともとあった技術を活かして、それを掃除機に応用したり、扇風機に適用して、新たな形へと変えていく。徹底的に試行錯誤を繰り返すことで、諦めることなく粘り強く開発していく。ダイソン氏のこうした信念こそが「ダイソン」というベンチャー企業を生み、今では、世界中の人々の生活に驚きを提供しているのです。

羽根のない扇風機
【提供　ダイソン株式会社　】

千代田区麹町にあるダイソン（株）日本法人のビルを訪れると、エントランスにはダイソンの掃除機等の自社商品はもちろん、なぜかホンダの「スーパーカブ　50」が展示してあることに気がつきます。これは、ダイソン氏がもともとホンダの「スーパーカブ　50」を愛用していたことに由来するものですが、その他にも、ソニーのウォークマン等、ダイソン氏は日本のものづくりに対する強いリスペクトをたびたび表明しています。創業してまもなく日本に進出したダイソンですが、家電文化が既に成熟していた日本市場を舞台に、小さくて精巧なものを好む日本人の嗜好に触れた経験は、その後の製品開発に活かされていきます。

一例を挙げれば、日本の家庭をターゲットとした掃除機は、躯体を A4サイズにおさめることを求められました。パワーを維持したままコンパクト化することは困難を極めましたが、その結果として、ダイソンは世界初の「デジタルモーター」という独自の技術を手にすることになりました。

サイクロン式掃除機
【提供　ダイソン株式会社　】

その独自のモーターの技術をもって、ダイソンは 2016 年に美容家電部門に進出します。ダイソンが選んだ商品は、ドライヤーでした。ぽっかりと穴のあいた不思議な形は、ヘアドライヤー界に革命を起こしました。この斬新な形状の秘密は、風を起こすためのモーターがハンドル部に格納されていることにありました。一般的なドライヤーのモーターはヘッド部分の内部にあるため、「頭でっかち」な形になりがちで、ユーザーが使用する際には疲労の原因にもなっていました。しかしダイソンのドライヤーはヘッドが軽いために重量バランスがよく、身体に負荷がかかりません。これを実現したのは、単1電池ほどの大きさで重さはたったの 49g、それでいて1分あたり最大 11 万回転できるというデジタルモーターのおかげでした。取り込んだ空気は、「羽根のない扇風機」で培ったダイソン独自のエアマルチプライアー技術によって 3 倍に増幅され、高圧・高速の気流を生み出します。ちなみに、「Dyson Supersonic ヘアドライヤー」が最初にお披露目されたのも日本でした。

Dyson Supersonic
ヘアドライヤー
【提供　ダイソン株式会社　】

ダイソンはその他にも、「Dyson Zone™　空気清浄ヘッドホン」という大変ユニークな製品も開発しています。これは、ノイズキャンセリング機能を搭載した高品質のヘッドホンと、口元を覆うタイプの空気清浄機が一体化したもので、見た目にはかなりインパクトがあり、革新的でありながらもチャレンジングな商品となっています。一方で、浄化された空気を吸い込みながら、騒音がシャットアウトされた状態で音楽を楽しむことができるという製品コンセプトは、世界中の都市部で生じている課題をしっかりと捉えて、質の高いパーソナル空間を希求する時代の要請に応えたアイディア商品であるとも言えるでしょう。

ダイソン氏は、ダイソンがこれほどにも革新的な製品を次々と世に出し続けられる要因のひとつに、「ファミリーカンパニー（家族経営）であること」を挙げています。現在も、チーフエンジニアとして同社を率いるダイソン氏とその息子のジェイク ダイソン氏ですが、特にジェイク氏は、先ほど紹介した

空気洗浄ヘッドホンについても、「大気汚染や騒音など、屋外の生活環境は今後さらに悪化すると予測できた。成功の保証なんてないが、自分たちがもつ技術を用いて問題解決できるなら挑戦しよう」と語っています。さらにジェイク氏は続けて、「家族経営だからこそ、価値があると確信したら取り組める。羽根のない扇風機も、何百万台も売れるなんて想像もしていなかったが、新しい市場を生み出し、さらに発展して空気清浄機へとつながった。やるべきことにリスクを取れるのが私たちの会社だ」と言い切っています。

このように、ダイソンは単なる「掃除機メーカー」ではなく、自分たちが持っている技術によって新しい市場を創出し、魅力的な製品の供給を通じて、身近な生活から社会問題に至るまで、さまざまな課題を解決していこうとしているのです。

農業開発
【提供　ダイソン株式会社　】

そんなダイソンが現在熱心に取り組んでいる事業の一つが、農業です。イギリス・リンカンシャー州キャリントンにある「ダイソンファーミング」では、最新のテクノロジーを駆使して、小麦や大麦、ジャガイモ、タマネギ、エンドウ豆等を栽培しており、単一生産者としては英国最大級の規模を誇っています。また、嫌気性消化装置（トウモロコシやまぐさなどの生分解性物質をバイオメタンに転換する）から得られる電力や熱等を使って、巨大な温室でイチゴの栽培も行っています。すなわち、作物を育て、廃棄物を回収し、ガスを発生させることで、それを今度は発電機の燃料にする。そしてその発電機の熱を使って温室を温めたり、穀物を乾燥させたりもする。イチゴ栽培に必要な熱と電力は、サステナブルな方法で農場から自足しているという訳です。ダイソン氏は、このモデルをイギリスのみならずいずれ世界に展開できると言います。

ほんの 30 数年前、あふれ出るアイデアを形にするためにサンプル機一つを抱えて日本行の飛行機に乗ったイギリスの青年が、今や東京ドーム 70 個分ほどにもなる 2 つのテクノロジーキャンパスを持ち、シンガポールの本社をはじめ、マレーシア、フィリピン、中国、ポーランドなどに研究開発拠点がある巨大グローバル企業のトップとして、テクノロジーの最先端を走り続けているのです。

2024 年から稼働予定のシンガポールの新工場では、次世代バッテリーの先進的製造拠点となるほか、ロボットや人工知能（AI）の研究にも取り組む予定だと言います。ダイソンはこれからも、スタートアップの精神、すなわち実験し、学び、冒険する自由をもち続けて、世界をあっと驚かせる製品を発表し続けるアントレプレナーであり続けるのでしょう。

ダイソン氏と息子のジェイク氏の写真
【提供　ダイソン株式会社　】